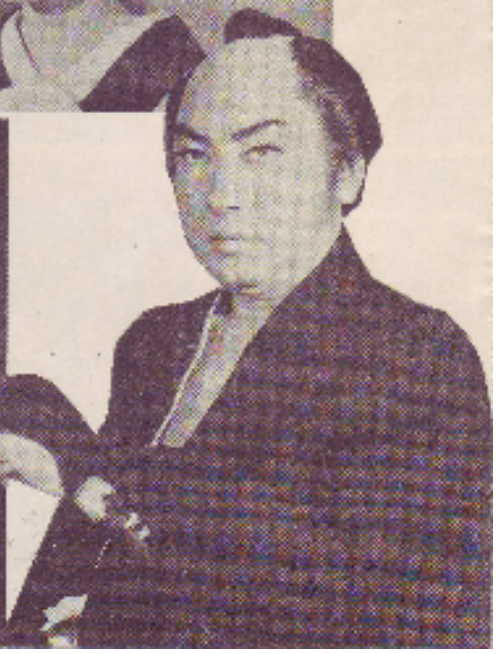
富士長次郎

大映スコープ
総天然色

次郎長富士

スタヂオマイク



岐阜日野河原に展開する

長谷川以下オールスタアの大殺陣

颯爽喧嘩装束に張切る二十八人衆

長谷川一夫、勝新太郎、根上淳、黒川弥太郎、本郷功次郎、島田竜三、品川隆二、石井竜一ら大映の誇るオールスタアが大挙してのロケだけに、平常ロケづれしている、土地の人々も度胆を抜かれ、仕事も手につかず、数千人の人々が終日ロケを見学。相憎く同時録音をしているので、その整理にスタッフを大変。

次郎長の長谷川一夫以下お馴染み清水二十八人衆に扮した大映のスタア連中が好天に恵まれ、汗を流しての大立廻り。

スタッフ百六十人、エキストラ四百人の大ロケ。キャメラはたえずこのモップ・シーンを追いかける。次郎長方はウグイス色に濃紺の「長」の字くづしのユニホームの喧嘩装束に身を固め、親分次郎長だけが黒の喧嘩仕度、一きわ目立っての陣頭指揮。白地に「長」の字を染めた吹流しを林立させ気勢をあげれば、対陣した黒駒方は無地の赤い吹流しを押し立て、さながら源平の合戦の様相を呈している。

森一生監督の意図を体して、殺陣師の宮内昌平も、従来の型にはまった立廻りを極力避け、やくざらしく、剣道を知らぬ荒々しい立廻りに徹することになった。無茶苦茶に刀をふり廻して多人数が、広い河原一帯を暴れ廻る。本郷功次郎、石井竜一ら初めてのやくざスタイルの若手スタアも力一杯の大熱演。

御大長谷川一夫の貫禄のある次郎長の指揮のもと、森の石松の勝新太郎、大政の黒川弥太郎らが、それぞれ個性のある立廻りを展開、みる人をタンノウさせた。

◆スタッフ◆

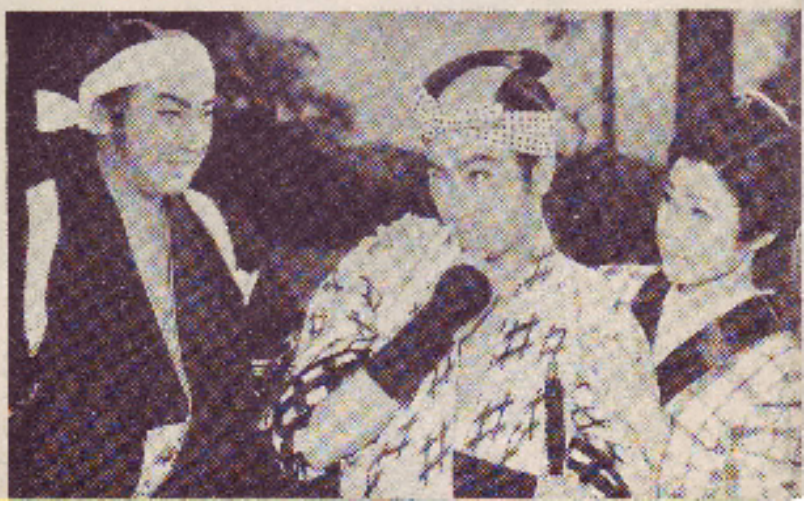
◆キャスト◆

◆作品解説◆

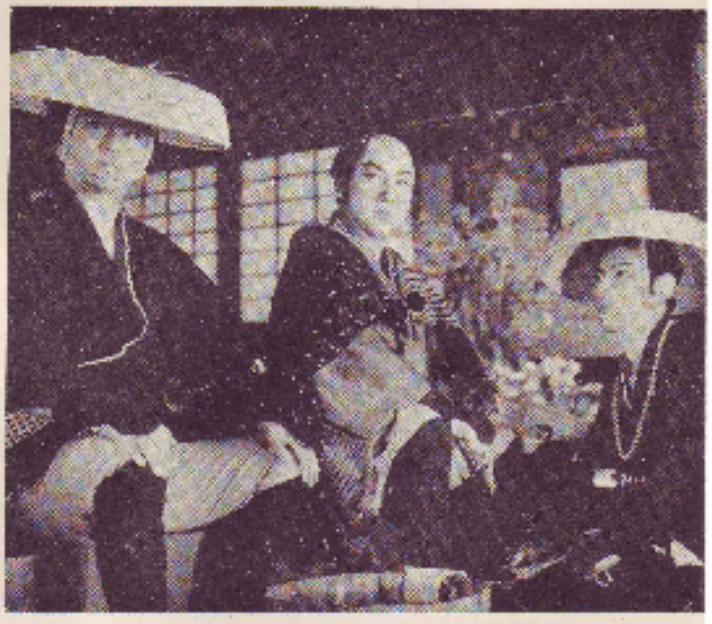
大映スタア総動員で血しぶきあげる殴り込み！

二度と見られぬこの顔振れで血降らす超豪華篇

秋葉の火祭から富士川の決戦まで、大映総動員で斬りまくる！



次郎長富士



❖櫻　撰❖

[illegible]

[illegible]